

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年の4月に職員からの案をもとに、地域をふくめた理念へ変更した。【笑顔・安らぎ・交流】笑顔が絶えない安らぎのある生活 人・地域との交流を大切にする}という理念への変更を行った。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室へ理念を掲示し、管理者・職員が意識を持ち共有し実践できるよう努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を玄関へ掲示し、ご家族や来訪者へ説明を行っている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通りかかった方々への挨拶を心掛けている。地域行事などへも少しずつ参加し顔なじみの関係を築いている。しかし気軽に立ち寄っていただけるような関係ではない。	○	今後、運営推進会議や地域行事の参加を通じ、理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の中学生の福祉体験学習の受け入れを行ったり保育園の訪問を受け入れている。夏祭りへは参加している。地域の敬老会や運動会への参加も検討したが、今年度は新型インフルエンザを考慮し参加を見合わせた。	○	少しずつ地域の行事などへ今後も参加を検討していきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで、民生委員の方へ何かお手伝いできることがある時は声をかけて下さいと、お願いしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については各職員へ伝達している。少しずつではあるが地域行事へ参加したり、ホーム理念を地域を含んだものへ変更した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の情報やレクレーションの予定や報告。インシデントや苦情など報告を行っている。またスライドを使って実際の写真を見ていただきその時の様子などを伝え、皆が発言しやすい環境作りを行行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以前はホームの様子やホームたよりを持って行っていたが、現在行く事がなくなっている。	○	今後、また再度ホームたよりなどを持ち、積極的に当ホームの情報を提供していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修へ職員が参加し、伝達している。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会などの学ぶ機会を作っていないが、日々の業務内で話し合い報告している。精神的虐待もあるため声掛けも注意している。	○	今後の勉強会テーマとして取り上げていきたい
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に相談・見学を行い、契約も時間をかけ一つずつ説明を行っている。また解約前にも説明を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設・設備面では法人へ報告し改善を行っている。その他は職員・管理者が対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に変化があった場合はすぐに家族等へ連絡・報告を行っている。また面会時におこづかい帳のチェックをしていただいている。遠方のご家族等へは個別に手紙や月1回のホームたよりで職員異動を含み報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの窓口は管理者と計画作成担当者である。苦情などあれば職員伝達と記録の保管を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスにて機会を設けている。また時間があいた時などにも意見を求め機会を設けている。	○	意見・提案を言いやすい関係を今後も継続していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務希望やレクレーション予定などを前月中旬までに提出し、シフト作成時に反映させている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限に抑えるため新規職員へは、管理者・職員で声掛けや対応について情報提供や指導を行っている。	○	今後も利用者へのダメージを最小限に抑えていきたい
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人担当者が職員募集・採用を行っている。また冠婚葬祭などの特別休暇も定められ、研修参加費や交通費も負担している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に求められる10か条を掲示し人権を尊重したケアに努めている	○	今後の勉強会テーマとして取り上げていきたい
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会、法人内、県・市主催などの研修参加を積極的に行い、レポート提出を義務づけている。また研修参加後は必ず伝達講習を行い、小規模多機能と合同で持ち回りの担当職員がその時に必要だと考えたテーマを決定し2ヶ月に1回勉強会を行っている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会Aブロックに所属し全体研修や新人研修など様々な研修へ参加している		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内でのイベント(海水浴・旅行)があり出勤扱いとなる。現場を少しでも離れるとリフレッシュすることが出来るので休憩時間を職員間で協力し確保している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的勉強会を行い、担当者がテーマ決定から資料作成などを行うことで意識改革や努力することの必要性を感じてもらえるよう努めている。	○	職員一人一人が目標を持ち取り組めるよう環境を整えていきたい
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族等からの相談・見学からの利用開始となることが多いが、可能な限りご本人も見学していただいている。可能であれば本人自身と話す機会も設けている	○	今後もより多く機会をつくり不安感を受け止めていきたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に日程を調整し、互いにゆっくりと話しができるよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一敷地内に小規模多機能ホームや居宅支援事業所があるため柔軟に対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染むためには時間がかかるということを職員一同認識しており、まずご本人が思われるままに生活していただくことから始めている。他入居者との間にも時には職員が入りお互いが安心できる雰囲気作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活し多くの時間を共有させていただくことで学んだり支えあう関係を築いている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを含め一緒に考えていただいている。	○	今後ホームでのレクリエーションの参加を呼びかけたい
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	以前からの関係性や想い等を理解し、本人・ご家族双方からのお話をきいている。またご入居後に関わり方に変化があるご家族もいるのでより良い関係を築けるよう支援していく。	○	ご入居者が重度化し面会や外出などに消極的になられるご家族もいらっしゃる為ご家族の負担も考慮し支援していきたい
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などの訪問も快く受けている。またかかりつけ医やなじみの美容室への外出支援を行っている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	少人数での生活なので問題が発生することもあるがレクリエーション時や外出時、食事の際などグループ分けを考慮し利用者同士の役割や関係性を築いていただけるよう努めている。	○	職員がうまく間に入りお互いの感情を受け止め公平な対応を行う
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後継続し関わり合う方はいらっしゃる。病院受診時など顔を合わせる機会があれば声をかけている。	○	サービス終了後もご家族などとの関係を大切にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時にモニタリングを行い現状の満足度をうかがっている。意思疎通が困難な方へは日々の言動や表情・行動から把握するよう努めている。職員が一人ずつ担当しているが担当以外にも職員が連携し把握に努めている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に個人状況表を作成しご本人やご家族から、出来る限り多くの生活歴や趣味・性格など情報収集に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録の作成。日々の食事量や排泄状況、睡眠時間なども表へ記入している。職員は必ず伝達事項に目を通し情報収集を行ったあとに申し送りを受けている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフで話し合いを行い介護計画を作成している。またチェック表にて計画に基づいたケアが行えているか確認している。また連絡ノートを活用しそれぞれのアイデアや気付きを反映させている。ご家族等へも意向をひとつひとつ伺っている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態変化に注意しかかりつけ医や、看護師・PT・OTなどの意見も取り入れている。またご家族面会時に話し合っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へ日々の様子や気付き、ケアの対応などを記入している。また介護計画のチェック表へも毎日記入し、急な受診や問題行動があった場合はその経過も記入している。それらをもとにカンファレンス等で検討・見直しを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内の小規模多機能ホームと共同でのレクリエーションを行ったり、訪問看護や訪問ヘルパーも同一敷地内にある為異常時は連絡し応援体制を整えている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	同校区内の中学校の福祉体験学習の受け入れを行ったり、短大生の実習受け入れ、フラダンスや絵画ボランティアを受け入れている。	○	今後も積極的に地域へ参加していきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科を受けておられる入居者がいる。	○	今後も入居者の必要に合わせサービスを利用していきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加はさせていただいているが、そのほかでの協働は無い。	○	今後、交流を深め協働していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医から変更する際は、ご本人・ご家族ともにご理解を頂き、定期的健康診断も行なっている。また他病院への受診の際はご家族にも協力を得ている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医より専門医を紹介していただき、適切な治療が受けられるよう支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎月2回の訪問看護を受け、その際に身体状況などの相談をおこなっている。同一敷地に訪問看護ステーションもあり、緊急時は応援体制をとっていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が環境変化に戸惑うことがないように病院への情報伝達を密に行なっている。退院後もリハビリが必要な方への通院介助も行なっている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「看取りの指針」を書面で説明し同意をいただいている。重度化などから医療的ケアが常に必要となった場合はお話をさせていただく場合が多い。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関が隣接している為、ターミナルケアの経験がない。かかりつけ医とともに「できること・できないこと」の見極めを行なっている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	様々な事情はあるが十分な話し合いの上でお互いの納得後、移り住んでいただいている。当ホームでは本人のダメージを最小限に抑えるよう努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者の誇りやプライバシーに配慮し尊敬の念を持って安心していただけるよう方言を使い、信頼を得る声掛けを工夫し行っている。	○	入居者の方の自尊心に配慮した声掛けを行っている。時に見守りを行いながらの申し送りや情報伝達もあるがイニシャルを使用し声のトーンなど十分配慮している。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご入居者に合わせて短い言葉やジェスチャーなどでのコミュニケーションを取り入れている。その場の心身の状態を尊重している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のその場の心身の状況を尊重し、無理のないペースに合わせた生活を考え支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今まで使用していた化粧品を使用していただき、化粧や準備の時間も入居者により異なるので考慮し支援している。いきつけの美容院へお連れし、パーマや散髪をしていただいている。気になる方の白髪染めはホームにて行っている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人関連施設へ入居者の方と取りに行き、配膳・注ぎ分けと役割を持っていただいている。週に1回以上入居者の食べたい物や旬の食材、庭の畑の野菜を使用し、おかず作りを行っている。入居者の希望に合わせて刻んだり調味料を選択していただいている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	梅酒を作り、ご希望される方には飲んでいただいている。飲み物や食べ物・おやつも個人で購入できるよう支援している。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し一人一人の排泄パターンの把握に努めている。さり気ない声掛けを行い失敗があった場合でも自尊心を傷つけない言葉掛けを行いできる限りトイレでの排泄を支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間、曜日はおおまかに決めているがご本人の希望や身体状況に合わせて入浴を楽しんでいただけるよう支援している。拒否がある場合には無理をせずタイミングをみて言葉掛けを行なっている。ご本人が以前より使用の石鹸等あればご希望のものを使用していただいている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡の時間やその方の生活習慣に合わせた支援を行い無理に起こそうとせず休む時間も必要と考えている。夜間不眠時などは、職員室にてゆっくりとお話をしたりとその方に合わせて支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが趣味や生活歴が違うため、その方に合わせた支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金銭管理をされている方もいらっしゃる。グループホームでお小遣いをお預かりしている方もご希望の際はお小遣いをお渡し、支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩、ゴミ捨て、食事取りへと様々な場面で外出していただけるよう支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションの中で個別でご希望の所へ出掛けられる機会を作ったり、ご家族とともに食事へ行かれる方もいらっしゃるが最近、ご家族との外出機会が減ってきている。また具体的に本人から外出の希望を言われる方は少ない。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置しご家族や友人へ自由に電話できる状況をつくっているが最近の使用は殆どない。また居室に電話を設置することもできる。年賀状は出来るだけ全員がご家族などへ出せるように支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただける環境作りを行い、馴染みの方々との時間を大切にしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、研修へも職員が参加し伝達講習を行っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っている。福岡市による実施調査の際確認し、施錠することでの外部からの進入を防ぐことが出来ると考えている。1階・2階フロアそれぞれに鍵はなく入居者が自由に行き来出来る環境を作っている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認に対しては、常に意識を持つよう職員が徹底している。しかし職員の休憩時間や交代時など職員が手薄になった際、所在把握が出来ていないときがある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせ物品の保管や居室環境をご家族とともに考えている。ご家族とともに職員一人ひとりが危険防止に努めている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内のリスクマネジメント委員会やインシデントレポート、マニュアルの報告が定期的にある。ホーム内でもインシデントレポートの提出を指導し、職員一人ひとりが意識を高められる取り組みを行っている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	協力医療機関が隣接し、急変時の応援体制を確立出来ている。また家族への連絡マニュアルもありすぐに対応出来る環境を整え職員室に掲示している。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の火災訓練に参加したり、併設する小規模ホームとともに火災訓練も行なっている。また、緊急時の対応マニュアルを掲示している。法人内で対応出来る環境を整えており地域の方々への働きかけは行っていない。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族へ定期的に近状報告を行い、予測できるリスクや、対応策を説明しご理解いただいている。その際の入居者の状況などもお伝えし、情報を職員含めご家族とも共有できている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎週のバイタルサインチェック・記録に加え定期受診時の血圧測定、訪問看護等あらゆる場面で、職員が気付きの目をもつよう指導している。また職員間でも共有し上司への報告を行い指示を受けている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の情報を、いつでも確認出来るようファイルしている。また臨時薬の情報もファイルしている。与薬の際の注意事項を薬箱に記入し対応している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認や排便パターンの把握、水分摂取量のチェックを行い、日頃から乳製品や水分摂取量等で腸内環境を整えるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりへ声掛けや介助を行っている。また週一回は義歯洗浄剤を使用し、必要な方には週一回訪問歯科による口腔ケアを行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し必要な方は水分量のチェックを行っている。関連施設での栄養管理された献立を提供している。主菜を刻んだり、一人ひとりの希望や状態に合った支援をしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会があり、マニュアルや勉強会を行い、冬には手摺り等の消毒を行なっている。手洗い・うがいを徹底し、面会のご家族にも張り紙をして協力していただいている。またインフルエンザの予防接種は毎年行なっている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルとチェックリストを活用し定期的に調理道具や食器、冷蔵庫の消毒を行なっている。また冷蔵庫内の食材を書き出し、早く使いきるよう把握しやすくしている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	寮を改築しているため普通の家とは外観が違うが、車椅子用のスロープがある。また玄関周りにはプランターを置き、明るく家庭的な雰囲気になるよう工夫している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者の方が活けてくださった季節のお花を置き、壁には入居者の作った絵、写真などを飾っている。また鏡餅や雛人形、クリスマスツリーと季節を感じていただけるよう配慮している。テレビのつけっぱなしをせず、適度な音量での民謡や三味線などの音楽を流している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室と通路の2ヶ所に、ソファと椅子を置いている。利用者同士で仲良くお話をされたり洗濯物をゆっくりと一人で置かれたりと思い思いに過ごしていただいている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に家具や使い慣れた物を持ち込んでいただいている。人形や植物、家族の写真など入居者の方が大事にしているものを尊重している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は行なっている。また消臭剤も使用している。入居者によって体感温度が違うため訪室し職員が対応している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前の寮を改築し古い建物なので、段差や梁があったり出入り口が狭い部分がある。しかし手摺りの追加や床の張替えなどを行い工夫に努めている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのボタンなど説明書きを貼り混乱を防いでいる。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り季節感を味わっていただいたり、収穫後は入居者と共に楽しみながら調理している。ベランダでは干し柿を干したり、花のプランターを置き、楽しんでいただけるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 ○ 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない